

# 神戸昇天教会月報

〒652-0015 神戸市兵庫区下祇園町39番7号 神戸昇天教会

牧師 小南 晃 電話 (078) 361-4490  
 編集 「月報」編集委員 FAX (078) 361-4539  
 振替口座 01110-2-10517

## 2012年4月

# 復活節

## 復活の主との出会いの時 ～ 黄昏時に会われる復活の主 ～

その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。(ヨハネ 20:19)

司祭 ミカエル 小南 晃

以前、鳥取にいた時のことです。当時、鳥取では超教派の活動や行事が盛んでした。そして復活日の朝には早朝祈祷会が行われ、夕方にも集会在超教派で守られていました。そうした復活日の超教派の集会で、教団の或る先生が、夕べの集会で話されたメッセージがとても印象に残っています。

「復活日と言えば、朝のイメージ。そして季節で言えば春のイメージで捉えがちである。しかし『復活日といえば春』というのは北半球ならではのことであって、南半球ではこれから秋、冬へと向かう事になる」。そしてその先生は、「復活を春のイメージ、朝のイメージとしてとらえる事は、青年や働き盛りの人生これからという人々にとっては気持ちにピッタリ合うだろうが、人生で言えば秋、さらには黄昏時の人にとってはどうだろう。むしろもはや自分には縁の無い世界という思いを抱かせる事になるのではないだろうか」と言われました。そして更に「しかし弟子たちがご復活の主に出会ったのは、すべて夕べから夜にかけてであった」と言われたのです。

### 黄昏時にこそ

マグダラのマリアや数人の婦人

たちは、確かに朝、復活の主に出会っています。しかし後に復活の証人となった弟子たちは、すべて夕方、或いは夜に復活の主イエス・キリストと出会っているのです。

冒頭に引用した、ヨハネ福音書20:19以下には、そのことが記されていました。更にルカ福音書24:13以下の、エマオ途上の2人の弟子たちが復活の主イエスと出会ったのは夕刻であり、彼らが復活の主と気付いたのは夕食の席においてでした。

復活の主が夕方、また夜に弟子達に会われたということ、これは人生において黄昏時、また挫折や絶望に陥っている者のもとにこそ、復活の主は訪れてくださっているのであり、まさにそうした状況こそが復活の主と出会いの起こる時なのだというメッセージでした。

夕方、弟子たちはユダヤ人に対する恐れから自分のいる家の戸に鍵をかけていたとあります。閉塞状況という言葉がありますが、戸に鍵をかけて閉じこもるとは、まさにその状況であり、また、それは望みの絶たれた状況でもあります。しかし主イエス・キリストのご復活を信じ、受け入れた時、主は、私たちに永遠の命への希望と喜びへと、闇

から朝のすがすがしさへと導き出してくださり、閉塞状況から解放してくださるのです。そして今、復活の主は聖書のみ言葉を通して主イエス・キリストを信じるようにと常に呼びかけておられます。

### 今こそ求められる使信

今もし、私たちの主にある兄弟姉妹、またその縁者や友人・知人において人生の夕べ、或いは夜の時を過ごされている方がおられるとしたら、例えば愛する人を失ったり、ご高齢または病気で肉体的な障害や衰えを感じて不安に思っている方、また仕事上の困難や挫折など、そうした試練の内にある時、それは心、魂において夕べの時、また夜の内を過ごしていると言えます。さらに東日本大震災から1年が経ちましたが、まだまだ復興には程遠い状況があります。或いは望みを失いそうになっている人々もおられるでしょう。しかし復活の主イエスは、まさにそのような人の傍らに寄り添っておられるのです。そしてその人々に「恐れるな」、「平和があるように」と呼びかけられているのです。

この時にあたって、心が闇に閉ざされ、望みを失いそうになっている人々が、復活の主イエス・キリストの光に照らされますように、また私たち自身が、さらに復活信仰を確かにさせて頂いて、共に復活の主を証しする者となり、希望と光の使信を伝える者となれますように祈り求めたいと思います。

### 定例集会

日 午前7時 早朝聖餐式  
 " 9時15分 教会学校  
 " 10時30分 聖餐式・説教  
 午後6時 夕の礼拝

火 午前10時30分 聖書研究会  
 土 午前10時30分 教会掃除  
 (ご奉仕をお願いします)